

【アクションカード⑥：屋外看板（屋外広告）の作り方】

以下に紹介する屋外看板の作り方の流れは、一般的な取組み手順です。取組み手順にならって進める中で、わからない部分がある場合は、遠慮なく商工会に御相談ください。

①屋外看板（広告）の役割

屋外看板（広告）には、「のぼり旗」「野立て看板」「袖看板」等があります。その役割は通行者や通行車への「気づき」と「刷り込み」です。そこを通る人に看板を見て内容を知ってもらい（＝気づき）、通学路や通勤経路など繰り返し通る人に何度も見て記憶してもらおう（＝刷り込み）です。結果、お店や事業所の「認知」と「記憶」の効果を上げることになります。

②許可や届け出が必要か否か

屋外に看板などの広告物を設置するには、原則として条例に基づく許可を受ける必要があります。また、広告物等には屋外広告物管理者を設置しなければいけません。しかしながら、看板の種類と大きさによっては許可が不要なものもあります。許可が必要になるか否かは、設置する場所が「商業地域」か「住宅地」か等々の条件によっても変わってきます。許可申請が必要な看板はどのようなものか、神奈川県を例にとって紹介します。

商業地域や工業地域などは、看板設置許可地域になっています。自己の氏名や営業の内容等を自己の住居・事業所・営業所等に表示又は設置するものは、看板面積が10平方メートルまでは適用除外になります。商業地域や工業地域以外は、禁止地域または広告景観形成地区になりますが、自己の氏名や営業の内容等を自己の住居・事業所・営業所等に表示又は設置するものは、5平方メートルまで、適用除外になります。

つまり、看板の面積が許可地域では、10平方メートル以下、禁止または広告景観形成地区の場合は5平方メートル以下であれば、届け出が不要ということです。

他にも、皆さんの事業所の立地する場所や看板設置の場所によって、種々の届け出が必要になることがありますので、詳しくは神奈川県の下記 URL を参照してください。

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/x2n/cnt/f692/p971749.html#Q2>

③屋外看板（広告）内容の検討のポイント

屋外看板（広告）の検討のポイントは、「見せ方」と「情報量」です。見せ方とは、どこから見えるか、どのように見えるか、です。情報量は見ている方にとっての「適量」の検討となります。

⇒車の運転手から屋外看板（広告）はどのくらい見えているのか

車は常に移動しており、運転手の視界は速度に応じて狭くなっていきます。歩行者のように立ち止まって看板を見るということもできません。従って瞬時に目に入ってくる広告が必要になります。以下は車が1秒間に進む距離をまとめた表です。

走行速度	走行距離	走行速度	走行距離
------	------	------	------

10km/h	2.8m	20km/h	5.6m
30km/h	8.3m	40km/h	11.1m
50km/h	13.9m	60km/h	16.7m
70km/h	19.4m	80km/h	22.2m
90km/h	25.0m	100km/h	27.8m

※走行速度×1,000m÷3,600秒により算出

例えば、自店が出稿した屋外看板が、百メートル手前からだと別の建物の影に隠れ、見えないと設定しましょう。その上で、車が50メートル手前から、看板が見えるようになる場合、時速60キロなら、看板が見え始めてから看板を通り過ぎるまで2.99秒です。もし、時速80キロなら2.25秒しかないことになります。これは移動時間であって、看板に目を止める時間ではありません。この限られた時間の中で天候や道路の状況、運転者のスキルに応じて、周辺の看板などの情報を見る時間はさらに短くなっていきます。

⇒屋外看板に最適な文字の大きさとは

先ほどの例のように50メートル手前からだと看板が見えるのであれば、文字の大きさを200cm以上にしておくと、看板が見え始めたと同時に文字も読まれる可能性が高くなります。このように距離に応じた文字の大きさの目安が分かると、設置する看板に最適な文字の大きさが見えてくるものです。以下は公共機関や交通機関などで目安とされる距離に応じた文字の大きさを表した表です。

視距離	案内用図記号の基準枠寸法	和文の文字高	英文の文字高
遠距離(40m)	480mm以上	160mm以上	120mm以上
遠距離(30m)	360mm以上	120mm以上	90mm以上
中距離(20m)	240mm以上	80mm以上	60mm以上
近距離(10m)	120mm以上	40mm以上	30mm以上
近距離(5m)	60mm以上	20mm以上	15mm以上
至近距離(1~2m)	35mm以上	10mm以上	7mm以上

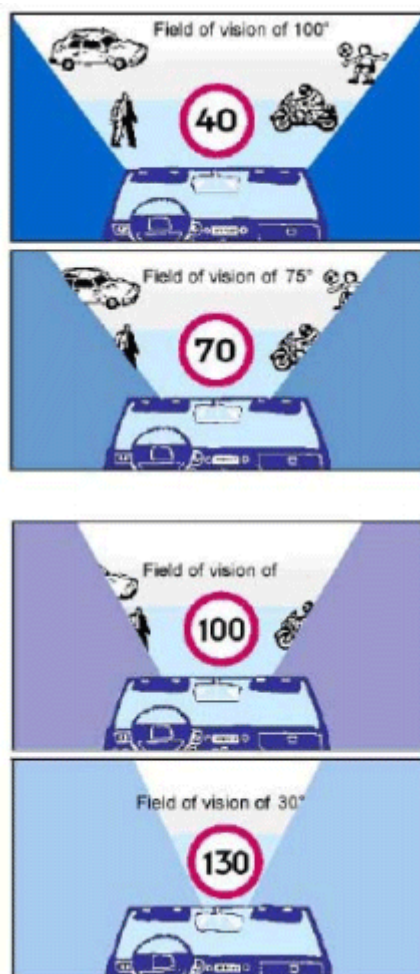
※出典：交通エコロジー・モビリティ財団「公共交通機関旅客施設の移動円滑化整備ガイドライン」

屋外広告の場合、上記の文字の大きさは最低限として、実際は1.5倍~2倍程度の大きさで作製すると安心して読めます。

⇒車の速度が速くなるたびに狭くなる視野角

車の速度が増すと運転者の視野は狭くなります。時速40kmでは、運転手は100度の範

周囲の視野がありますが、時速 130km では視野は 30 度の範囲となり、極端に認識できる周辺視野が狭くなります。



出典：内閣府 自動車の走行速度の低下による交通事故の低減効果等

ロードサインなどの屋外看板やのぼり旗は道路脇に設置されることが多いです。スピードに応じて看板が運転手の視野に入ってくる距離が変わってきます。速度の速い道路ほど、「より遠くから」、「より大きく」表示させることが視認性を高めることにつながります。

⇒歩行者にとって良い看板（広告）とは

以上のことからわかるように、少なくとも、通行車に視認性が良く、情報量が適切であれば、歩行者にとっても、良い看板であると言えます。

④結局のところ最善の屋外看板（広告）とは

結局のところ、車の運転手が看板を確認するにしても、歩行者が瞬間に確認するにしても、「1 秒」で理解できる内容と情報量が理想です。ロケーションや看板のサイズにより看

板を見てもらう時間は異なりますが、表示内容を「1秒」で伝わる広告にしておけば、ある程度どんな場面でも表示内容を認識してもらえるとされています。なぜならば、人の視線は一箇所にとどまらずに、常に動いています。その際に「0.3秒で15文字程度を認識できる」と多くの調査結果で明らかだからです。つまり「パツ」と見て目に飛び込んでくる情報を瞬時に認識することができるような広告を心掛けるべきです。

⑤のぼりの作り方

⇒効果的なのぼり旗とは？

屋外看板（広告）と、同様に考えていただいて結構です。しかしながら、「1のぼり旗1デザインの法則」だけは、念頭に置いて作成を進めてください。

通行人は、のぼり旗の内容をじっくり見てはくれません。従って「一瞬でなんののぼり旗なのか分かるように」する必要があります。その際、1つのぼり旗には、ひとつのメッセージだけを入れるということが原則です。

伝えたい情報が沢山ある場合も、のぼり旗には1つのメニューのみを表示するようにします。もし、お客様に訴求したい情報が複数ある場合は、のぼり旗自体を複数枚に分けるようにします。

⇒大きな文字が原則

のぼり旗は遠くから気づいてもらって、見てもらうことが条件になります。遠くからでも内容が分かるように、大きくわかりやすい文字のサイズにする必要があります。どのくらい大きな文字を使用すれば良いかは、どの程度離れた場所から、視認させたいかによって異なります。一般的に以下の表が目安になります。

視距離	和文の文字高	英文の文字高
遠距離(40m)	160mm以上	120mm以上
遠距離(30m)	120mm以上	90mm以上
中距離(20m)	80mm以上	60mm以上
近距離(10m)	40mm以上	30mm以上
近距離(5m)	20mm以上	15mm以上
至近距離(1~2m)	10mm以上	7mm以上

※出典元 交通エコロジー・モビリティ財団「公共交通機関旅客施設の移動円滑化整備ガイドライン」

平均的なのぼり旗の幅は60cm(600mm)あります。可能な限り大きな文字を配置することで遠くから見ても内容のわかるのぼり旗にしましょう。至近距離では10mmという文字サイズでも視認可能ですが、のぼり旗の場合、インクが生地に滲みますので、紙に印刷したような鮮明さはありません。従ってオススメはしていません。

また、写真などを盛り込んでレイアウトしたい場合は、A型看板などの他の屋外看板を使

用する方が良いです。写真はのぼりには不向きです。のぼり旗はあくまでも、遠くの通行人や、車のドライバーに最初に気づいてもらう、「アイキャッチ」としてシンプルにすることが一番効果的です。

【屋外看板（屋外広告）の作り方チェックリスト】

<input checked="" type="checkbox"/>	項目
<input type="checkbox"/>	屋外看板（広告）の役割を理解した
<input type="checkbox"/>	許可や届け出が必要か否かを確認した
<input type="checkbox"/>	屋外看板（広告）内容を検討した
<input type="checkbox"/>	最善の屋外看板（広告）が、どのようなものなのかを解釈した
<input type="checkbox"/>	のぼりの作り方のポイントを理解した